# プログラム

アンサンブル　日下部愛実　島迫温子　木津結子　目賀田英里

ヨハン・ヴァレンティン・ハン 作曲
3人の会話

J.M.ダマーズ 作曲
フルート、オーボエ、クラリネットとピアノのための四重奏
「ランソン・ウィルソンに」より 第1楽章 Moderato

ピアノ　湯浅美音

ベートーヴェン 作曲
ピアノソナタ 第4番 第1楽章

ショパン 作曲
ピアノソナタ 第3番 第1楽章

コントラバス　井垣旺士　伴奏　山田妃乃

セルゲイ・クーセヴィツキー 作曲
コントラバス協奏曲　第1楽章・第2楽章・第3楽章

－ 休 憩 －

アンサンブル　中井楓梨　上野陽一朗　小野口紗　馬場百絵

ロベルト・シューマン 作曲
ピアノ四重奏曲　変ホ長調　第1楽章

トロンボーン　松本果純　伴奏　五田碧

F.ダヴィッド 作曲
コンツェルティーノ 変ホ長調　第1楽章・第2楽章・第3楽章

ピアノ　戸村奈央

ベートーヴェン 作曲
ピアノソナタ 第21番 「ワルトシュタイン」 第3楽章

ラフマニノフ 作曲
ピアノソナタ 第2番 変ロ短調(1931年改訂版) 第1楽章

# プログラムノート

## ヨハン・ヴァレンティン・ハン 作曲　3人の会話

ヨハン・バレンティン・ハンは1811年12月11日ドイツのヴィンターハウゼンという町に生まれました。彼は音楽を勉強した後、ヴァイオリンの教師として1838年にヴュルツブルクに定住しました。彼の作曲する音楽は陽気で前向きなのが特徴です。まるでオーケストラをバックに3人のオペラ歌手が歌い、陽気に会話するように演奏致します。どうぞお楽しみください。（島迫温子）

## J.M.ダマーズ 作曲
## フルート、オーボエ、クラリネットとピアノのための四重奏「ランソン・ウィルソンに」より 第1楽章 Moderato

ジャン=ミシェル・ダマーズ(1928~2013)は、フランス・ボルドーに生まれ、当時主流であった現代音楽の流れに反し、優美な旋律を大切にした作曲家です。本日演奏する曲は世界的なフルート奏者、ランソン・ウィルソンに贈られた曲で、旋律はまるでフランス語の朗読のように柔らかく流麗です。各楽器が紡ぐメロディ、曖昧な調性、突如現れるユニゾン。光が波に反射してキラキラ輝く様子を思い浮かべながら、お聴きください。（島迫温子）

## ベートーヴェン 作曲　ピアノソナタ 第4番 第1楽章

この曲は、1797年10月にウィーンのアルタリアから出版され、ハンガリー出身当時ベートーヴェンと師弟関係にあったケグレヴィッチ伯爵令嬢バルバラに献呈された。恋愛関係にあったとされることもある彼女は、他にもピアノ協奏曲第1番など複数の作品の献呈を受けている。出版当時、曲は惚れ込んだ女性を意味する「Die Verliebte」という愛称で呼ばれたこともあったが、現実の人間関係がこの呼称の背景にあるわけでないと考えられている。（湯浅美音）

## ショパン 作曲　ピアノソナタ 第3番 第1楽章

「ピアノの詩人」ショパンの残した最後のピアノソナタ3番は、1844年に作曲された。持病の肺結核はさらに進行し、春には父親を亡くすなど、この頃のショパンは決して幸福な状況ではなかったものの、創作力は円熟を増し、均衡のとれた構成と霊感に溢れた旋律美を兼ね備えた、ピアノ音楽史上に残る傑作となっている。（湯浅美音）

## セルゲイ・クーセヴィツキー 作曲　コントラバス協奏曲　第1楽章・第2楽章・第3楽章

作曲者であるセルゲイ・クーセヴィツキー(1874～1951)について、若い頃はコントラバス奏者でしたが、34歳の時にベルリンで指揮者デビューを果たし、1924年よりボストン交響楽団の終身常任指揮者を務めました。ラヴェルなど、同年代の多くの作曲家の作品を初演しました。この曲は、彼がコントラバス奏者だった頃に彼の友人であるグリエールと共に1902年に作曲、1905年にモスクワで初演されました。（井垣旺士）

## ロベルト・シューマン 作曲　ピアノ四重奏曲　変ホ長調　第1楽章

この作品は1842年に作曲された。当時、シューマンは32歳であった。この年は、シューマンが特に室内楽の作曲へ力を注いだ年であり、この作品のみならずピアノ五重奏曲や3つの弦楽四重奏曲を書いている。そのため、『室内楽の年』とも呼ばれている。ピアノ四重奏の冒頭のモチーフは12小節からなり、全楽章の動機が提示されていて、ベートーヴェンの後期に作曲された弦楽四重奏曲と類似している。特徴的な静と動のコントラストをお楽しみください。（上野陽一朗）

## F.ダヴィッド 作曲　コンツェルティーノ 変ホ長調　第1楽章・第2楽章・第3楽章

この曲はヴァイオリニストだったダヴィッドが当時同じ楽団に所属していたトロンボーン奏者のために書いた曲である。冒頭は非常に力強いテーマから始まる。中間の柔らかで流れるような旋律を経て、軽快に1楽章を終える。2楽章は「葬送行進曲」と名付けられ、1楽章とは対照的なゆったりとしたテンポで展開される。3楽章では1楽章のテーマに加えて、最終章に相応しく、またトロンボーンらしい力強く輝かしいメロディーで締めくくられる。（松本果純）

## ベートーヴェン 作曲　ピアノソナタ 第21番 「ワルトシュタイン」 第3楽章

1770年、ドイツに生まれたベートーヴェンは、32曲のピアノソナタを作曲した。ベートーヴェンはこのピアノソナタ第21番を若い頃からのパトロンであるワルトシュタイン伯爵に献呈した。作曲される1年前、ベートーヴェンは自身の難聴に絶望し、「ハイリゲンシュタットの遺書」を書いている。その絶望の中、翌年(1803年)にハ長調で明るくエネルギーのあるこの作品が書かれた。その中でも第3楽章はロンド形式の華やかな曲で、エラール製ピアノの鍵盤の軽さを利用して作曲された38小節続くトリルやオクターブのスケールが特徴的である。（戸村奈央）

## ラフマニノフ 作曲　ピアノソナタ 第2番 変ロ短調(1931年改訂版) 第1楽章

1873年、ロシアに生まれたラフマニノフは1913年にピアノソナタ第2番を作曲した。しかし、あまり評判が良くなかったためか、1931年にラフマニノフ自身が改訂版を発表した。現在では、改訂版を演奏される機会が多い。3つの楽章からなるが、第1楽章の冒頭で提示される半音階の主題が1曲を通して何度も現れる。ラフマニノフの音楽は卓越した技巧が用いられ、ロマンティックな抒情性が特徴的である。この第一楽章も甘美で哀愁漂う旋律や複雑で豊かな和声によって展開され、非常に雄大でドラマティックな作品である。（戸村奈央）